

〔新名所繪歌合〕七十九番 大沼橋 右

良譽

きりふがき大ぬのつ、み行くれてわたりわづらふまきつつき橋

〔夫木和歌抄二十二〕こしちのかたなる人に

和泉式部

いそぎしもこし路のなごのつぎはしもあやなくわれやなげきわたらん

〔八雲御抄五所〕橋 なごのつぎ 越後

〔夫木和歌抄六〕なごのつぎばし越中、八雲には越後

〔攝陽群談七〕名吳繼橋 略 中 八雲御抄越後國ニ比ス、夫木集越中、大名寄攝津國ニアリ、

〔夫木和歌抄二十二〕天喜元年八月、賴家朝臣家歌合、越中國名所名子續橋、よみ人不知
いとくしくこひちにまよふ我身哉なごのつぎはしとだえのみして

〔夫木和歌抄六〕建長七年に顯朝卿家千首歌

光俊朝臣

枉若喚てや花のへだつらんとだえかくる、なごのつぎはし

〔善光寺記行〕その夜なごといふ所に著ぬ楓橋のよるのとまりもやと思ひづらね侍て、
曙や夢はとだえし波の上になごの繼橋のこるとぞみる

〔天正事錄〕慶長三年戊戌三月十五日、御花見秀吉 次第、御催夥シキ様體也 略 中 爰ニ山河漲落

テ逆寒流是ニ繼橋ノ欄干ヲ被掛

〔八雲御抄三〕橋 たな

〔藻鹽草橋〕たな橋 かうらんの様なる物しまる橋歟、又云、なに似れ
と云々、駒の足をれまへのたなばしといへり、

〔倭訓栞中編十三〕たなばし 萬葉集に棚橋と見えたり、棚のごと假に打渡したる橋をいふ也、

〔萬葉集十〕秋雜歌七夕
アマガハタナハシワセタナバタノイワカラサムニタナハシワセ

天漢棚橋渡、織女之伊渡左牟爾、棚橋渡

〔棚橋〕